

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

特開平4-49965

⑥日本国特許庁(JP) ⑦特許出願公開  
 ⑧公開特許公報(A) 平4-49965

⑨Int. Cl.<sup>1</sup>  
 A 81 H 3/04  
 A 81 G 5/00

⑩審査記号 厅内整理番号  
 9052-4C  
 9163-4C

⑪公開 平成4年(1992)2月19日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全9頁)

## ⑫発明の名称 帰省者用の移動車

⑬特 願 平2-156151  
 ⑭出 願 平2(1990)6月13日

⑮発明者 井浦 忠 愛媛県松山市別府町172番地4  
 ⑯発明者 八家 一 愛媛県伊予郡松前町中川原888-8  
 ⑰発明者 金浦 新吾 愛媛県松山市保免上2-9-6  
 ⑱出願人 井浦 忠 愛媛県松山市別府町172番地4

## 明細書

## 1. 発明の名称

帰省者用の移動車

## 2. 技術分類の範囲

手前部及び両端部が開きがコ字状になるよう下部にコ字フレーム1の前側両分に前側フレーム2を取付け、この前側フレーム2の上部に上部側コ字フレーム3を取付け、両側上部側コ字フレーム3が四脚あるいは上下脚によって昇降操作可能で構成し、前記下部側コ字フレーム2の前側両分に底フレーム4あるいは前フレーム3部に取付けられるキャスター5の取扱範囲100°、10°を、また下部側コ字フレーム2の左右後方に後側フレーム104、105を取付け、前記後側フレーム2あるいは上部側コ字フレーム3の昇降操作部分の左右両側に後側側が前側側より内側左側に凹曲するよう構成されて後側側が外側上方から内側下方へ傾き回転する立柱27°、27°を大きく取り、この各支柱の取扱範囲に椅子28°、26°を取付けてなる帰省者用の移動車。

## 3. 発明の詳細な説明

## 車両上の利用分野

この発明は、身体障害者や歩行困難な老人が車両にて歩行したり、椅子掛け状態で車両人が運行されることのできる帰省者用の移動車に関する技術

## 従来技術

従来、帰省者用の歩行移動車として、下面板がコ字状をした複数の下脚側に立柱、立柱にキャスターを掛けた構造のものがあり、このコ字状立脚内に障害者が立っておられるいは車輪の底板に脚を立てるものがあった。

## 発明が解決しようとする問題点

従来型の帰省者用の歩行移動車は、障害者自身の体重を自分の脚力と肩で支えなければならず、自分で歩ける力が弱まる障害者や老人でないと使えない欠点があり、これを改良して車にコ字状の複数の立脚側から脚/立脚で出したように立脚側から荷物できる椅子を立てて車椅子で移動せたり、介護人が押して移動できる構成としてみたが、このような改良では、椅子掛け状態にてみたが、このような改良では、椅子掛け状態にて

津局平4-49965 (2)

なる場合に一旦、運営者が成立しなければならぬ。ベットで椅子掛け状態になつても自分自身で歩道板間に沿つて同じく椅子掛け状態になることが出来なかつた。

### 周囲車を保護するための手段

この発明は、構造の複雑な各部構成の部品を簡略化すると共に、これを普通に複雑した形状の丸みと複雑化するために、平頭部及び側面部が丸みがユニークにならうよう下部側面字フレーム1の側面部分に両側フレーム2を取付け、この両側フレーム2の上部に上部側面字フレーム3を取付け、前記上部側面字フレーム3が凹部あるいは上下動によつて昇降操作が可能に構成し、前記下部側面字フレーム1の側面近くに該フレーム1あるいは該フレーム2側に取付けられるキャスター型の駆動装置4を有し、10レバ、一本左下部側面字フレーム3の底本体方に駆動装置4と、13トを取付け、前記側面フレーム2あるいは上部側面字フレーム3の長方形側面部分の左右両側に基部側が的形側面内側に取付けられ、該側面内側に由動するよう組合せられて該側面が開閉上

方から内側下方へ屈筋筋膜する支筋 27a, 27b を曳き出され抜け。この事支筋の後筋側に短子体 38a, 38b を取付けてなる障害者用の車椅子とした。

## 光場的作用及其動態

この結果によると、歩行の回数を成人と同程度がペットから得る筋勢である椅子持付状態になります。この筋勢から自分で歩道車につかまって歩路したり、介助者で進行するときには、歩道車をペットの前面にさせて、頭部を取付けた下部骨をフレームの後部をペット下部に固定させて上部骨コロナフレームの後部をペット上方に位置させると、そして、上部骨コロナフレームを下段ならしめておき、椅子持を取付けた左右の支柱を前面にセットならしめて平衡感における腰部に許容の椅子持付状態になった結果者が入り込むようになります。そして、左右側の上位に位置させていた椅子持体を支離の筋肉筋膜により次第に左右土方から剥離するように頭を込む。このようにペットに椅子持が取付けにならなかったままで歩道車の椅子持に頭を吸せ、次に

支輪が取付けられた前回フレームあるいは上部長  
コ字フレームの上部を上昇させるとバットから筒  
子体が運搬者が筒子抜け型的にセッタのままで持上  
して運行状態になり、且て筒を握るようにはすれば  
充分で移動でき、また介護者が移動車を押せば運  
搬子に任せた状態で運行できる。又、移動車に付  
けるだけでもり組みで移動する北欧的足の丈夫  
な運搬者や老人では筒子体を左右側の上方にセ  
ットする事で運行できる。

このように、この装置によると、ベットに躺在する被験者男のままで被験者の手筋りになる上部開口部フレームをベットの上方に位置させて被験者や被験者の身体を平面鏡において被験者の平面鏡部の上に位置させることができ、この装置のままで簡単に被験者体を鏡の下に置き込みて被験者掛け状態にならうことができ、更に、被験者体を床上して被験者掛け状態になった被験者や被験者を人を運行することができ、被験者を底する。

五 猪肉

図1 図は絶え痰を下方に運動して喉子掛け可能

にした状態の側面図であり、第2図はその背面図そして第3図はその平面図である。第4図は上面に載置する付属台及び本体や食事時の脱着部等を取く構造を取り外した平面図、第5図は本体の側面図、第6図は作用を説明する平面図を示している。そして、この第1図から第6図で示した順序に基づき説述する。1は下部側面コ字フレームで、左右側フレーム1a、1bの背面部分が前面部フレーム1c、1dで遮蔽されている。2は伸側フレームで、遮蔽部が前面下部側面の左右側フレーム1a、1bの前面側面にラゲット15とピン16とを介して伸側に開閉可能に取付けられた底フレーム2a、2bの上部に上部側面コ字フレーム2cを上下開閉可能に取付けている。即ち、この上部側面コ字フレーム2cは前面本体側フレーム2d、2eを構成するパイプ枠の内側に搭載されて上下に開閉させてセットボルト6で上下両部セットできる構造なり。7に開閉されている。そして、この上部側面コ字枠フレーム2cの上部に前述の脱着部及び本体や食事時の使用部等を取り外す場合8を示すフレーム

## 特開平4-49965 (3)

5に合致した位置を正面に形成して機器固定している。8は保持部を示す。

10a, 10bは駆動部で、前記左右フレーム2a, 2bに取付部を備えで前側へ突出するアーム11, 12に駆動部取りに取付できるモーターパーツを介して取付けられてている。

10a, 10bは駆動部で、前記下部側の左右フレーム2a, 2bの後端側に取付けられている。

11は油圧ロッドで、前記下部側の左右フレーム2a, 2bを連結した構造用の連結フレーム13に固定の左右側ブラケット15, 16に駆動部取付部17, 18に駆動部17, 18を取り付け、この駆動部17, 18と前記左右の左右フレーム2a, 2bとを連結している。そして、前記ビン15, 16に駆動部へ接続する駆動用ペタル棒19を取付け、このペタル棒19は平野地が勾配になっていて左右側のビン15, 16がこれによって一時に固定固定されている。

19はフレーム2a, 2bの底面側を行き来す

トッパー装置で、前記底面フレーム2aに同様の左右側ブラケット20, 21に固定底面部22, 23, 24を介し平野地オホホベタル棒25を取付け、この左右側フレーム2aに底面底面22, 23と取付、底面底面22, 23に形成した底面底面24, 25に底面底面22, 23が併置できるように設けている。25はスプリングを示す。

26, 27は支脚27a, 27bを固定自在に操作する脚部で、前記底面フレーム2a, 2bに取付けられた駆動部17, 18に、その脚中央の後方底面部(イ), (ロ)が内側に向かって互いに交叉するように構成している。

そして、支脚27a, 27bは、脚体28a, 28bで支持された近くで駆動部が示され、この支脚27a, 27bの先端部に脚子体29a, 29bを取付けてある。そして、この支脚27a, 27bを外方上部へ駆動させると同時に脚28aの状態になり、脚28bのように内方下部へ駆動をさせると同時に脚28bの状態になるよう構成している。

(1) 行走用

29はブレーキ装置で、前記前側フレーム2aを後方側へ回路させる脚部に接続して駆動部17の回転を止めないようにしておる。具体的には、左右側フレーム2a, 2bに固定のブラケット30にビン31で固定する脚32を設け、これにブレーキロッド33をビン31で固定し、このロッド33の駆動部中をフレーム13, 14で駆動自在に受け板で受け、このロッド33の歯板が歯板13の外側に固定された構造にしている。そして、歯板32を駆動部17とリンク(四点止め)で連結し、脚部フレーム2aを後方へ倒しているときに歯板13a, 13bが駆動しないように構成している。

次に、上例の作用を説明すると、ペッドAに操作者が水平掛け状態になり、ペッドAの底面は下部側コマフレーム1の側部側を離らせ、上部側コマフレーム1がペッドAの上側に位置するように移動車をペッドAの側面に引き寄せる。

このとき、操作者が移動車の平底コマ状態内に入り込むようにする。これまでの操作にあた

っては、第5回において前側フレーム2aを底面あるいは後方側へ倒したままの所みかの状態とし、また、支脚27a, 27bが脚28aの支脚の状態にしておく。したがって、脚子体29a, 29bが左右側フレーム2aに固定、かつ上側に位置するからペットAの上面に脚子体29a, 29bが位置せず、また操作者が水平掛けることなく底面にペットAの上面に上部側コマフレーム1を位置させることができる。

この状態で、前側フレーム2aを底面させると場合には、ペタル棒25を踏み込み、底面底面24から底面底面25をはずして前側フレーム2aを後方側へ倒した状態にする。

次に、支脚27a, 27bを内側下方へ回路させる。すると、脚子体29a, 29bがペットAの上面に接続して脚28a水平状態になろうとする。この状態で脚子体29a, 29bを操作者の足下に踏み付ける。そして、ペタル棒16を前側フレーム2aの駆動部の状態から内側状態に踏み込み前側フレーム2aを起立させ脚子体29aがペットAの上面か

ら海上を走る。この状態が萬国間の状態である。  
したがって、乗客船を徑て簡単に移動可能  
に就せ得ることが出来る。

前記実験例は、前記フレーム2が前後に回転せずベットル上面に固定した前記骨2を高く保てませる実験例について説明したが、前10回一組14回で示した実験例では、前記フレーム35・35レを前側のように軸板に回転をさせないで下部圓コ字フレーム1の前側に一体的に位置させ、この固定のフレーム35・35レの上面に接着させて上下垂直度を保証条件35レ、35レを取付け、この両前側部35レ、35レを盆腔板和37で連結している。そして、前記前側フレーム35・35レ内にナット35を固定して、このナット35にボルト39を締合している。また、前記横板37内にはハンドル40で正、逆回転操作できる軸41を設け、この軸41にウォームギヤー42、42を回転し、前記ボルト39、39にこのウォームギヤー42、42に取り付けるウォームホイルギヤー43、43を設け、ハンドル40

孙国平4-49965 (4)

四軸操作で斜側フレームをもつ、360度を上下左右  
全方位に操作している。

このようにすれば、該前回フレームを含む、3  
基とも上部側コナフレームを取付けておくだけ  
で、椅子体26a、26bを直ちに完成でき、操作  
性になる。

4. 四種外語教學法

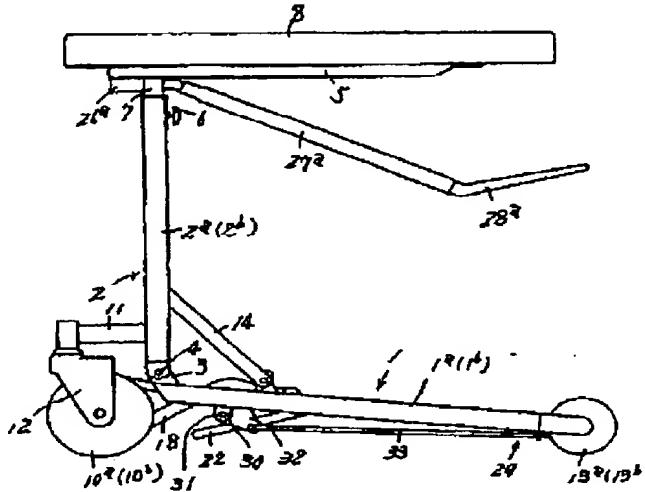
第1図は開腹圖、第2図は舌動脈、第3図は平頭圖、第4図は一部剥離の平頭圖、第5図は胃側の剥離圖、第6図は經尾平頭圖、第7図は平頭圖、第8図は作用狀態を表す舌括約肌圖、第9図は作用を強調する剥離圖、第10図は舌側の側面圖、第11図はその一部を省略した平頭圖、第12図は舌圖、第13図は一方の精子体を行進した狀態の舌圖、第14図は舌側の側面圖、第15図は經頭圖を一部強調した場合の剥離圖である。

第2回

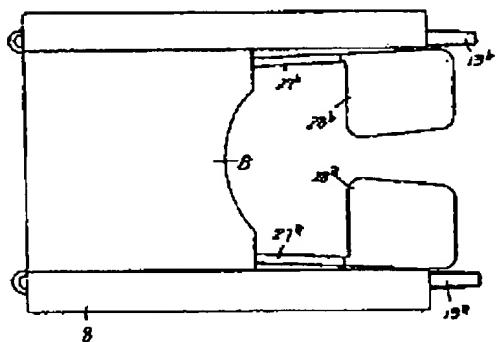
A technical line drawing of a rear-view mirror assembly for a double-decker bus. The assembly is mounted on a horizontal bar 5. It consists of two rectangular mirrors 28, each with a circular lens 29. The mirrors are held in place by vertical supports 6 and horizontal arms 7. A central support 8 connects the two arms. The entire assembly is mounted on a frame 16. The drawing also shows a lower horizontal bar 22 and various structural elements of the bus frame.

特許平4-49965 (5)

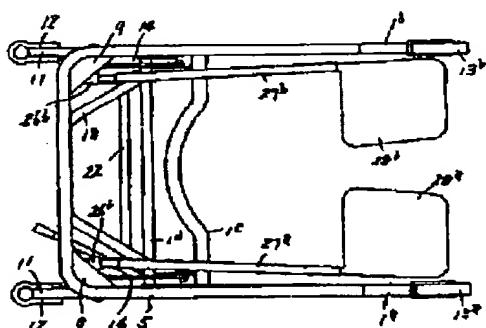
第1回



第3回

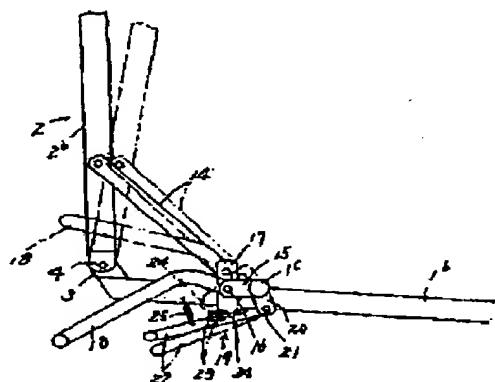


第4回

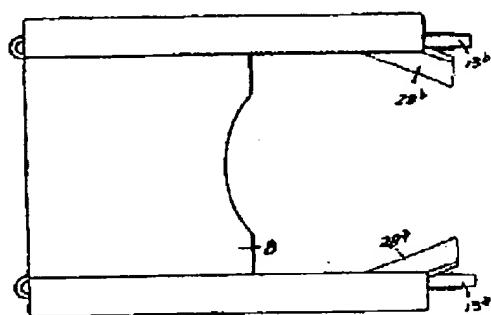


特許平4-19965 (6)

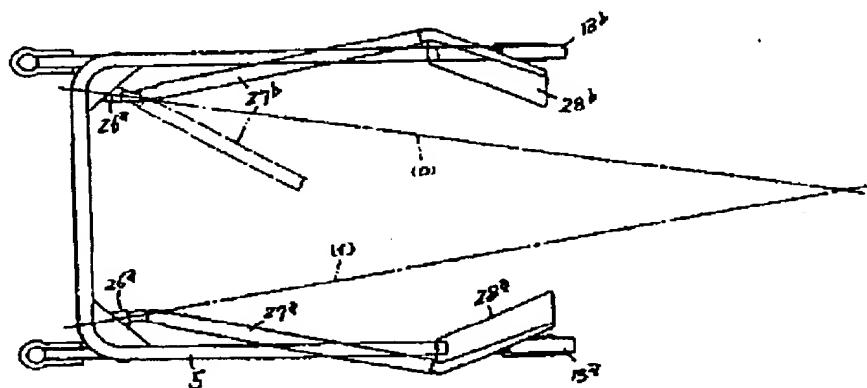
第5回



第7回

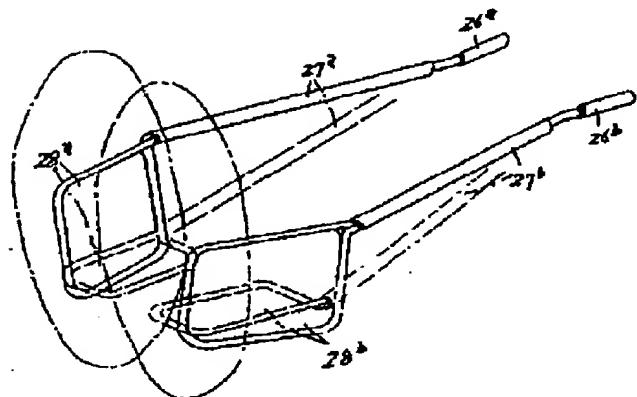


第6回



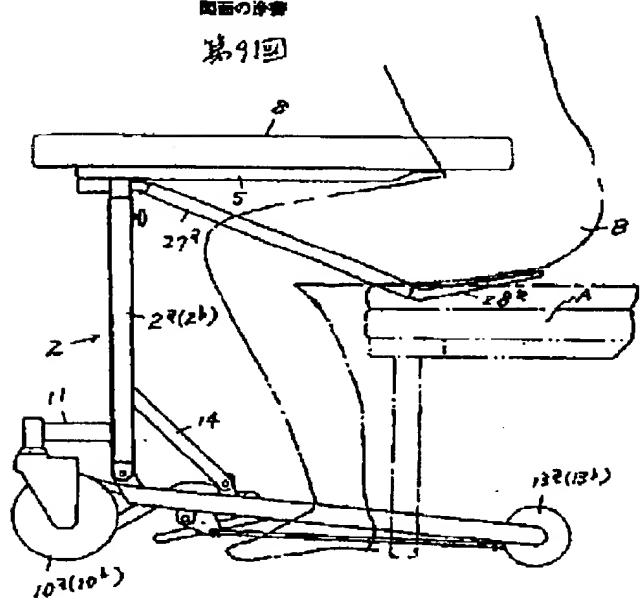
特許平4-49965 (7)

次図

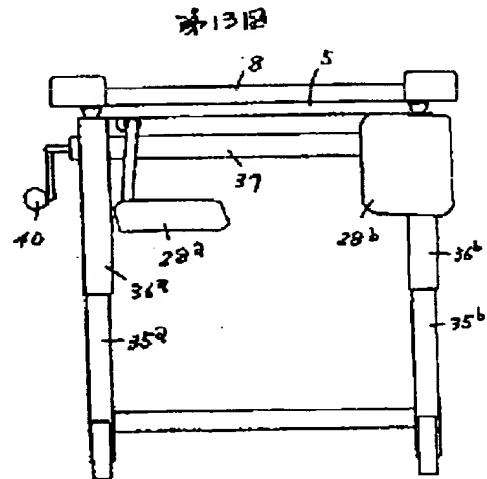
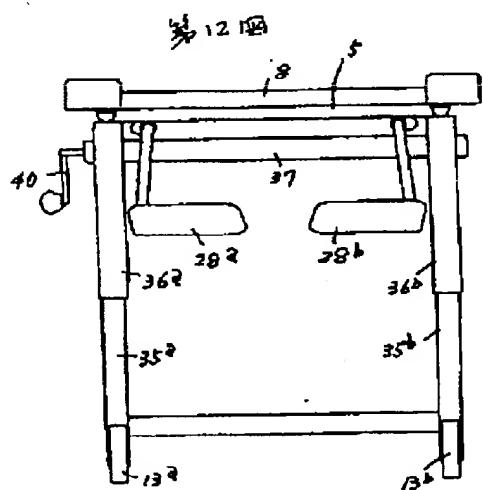
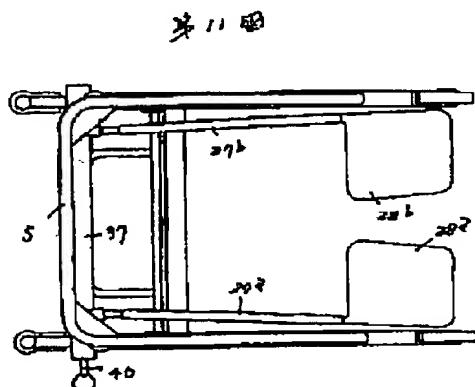
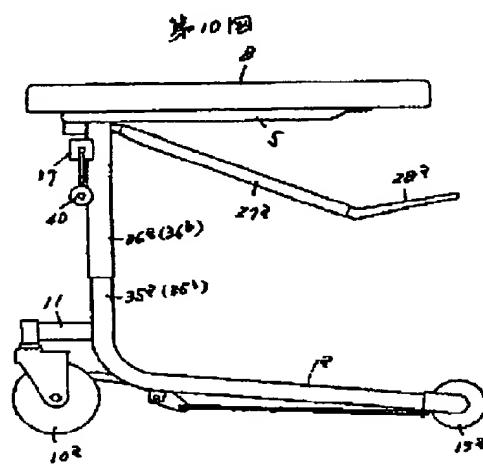


図面の添付

第91回

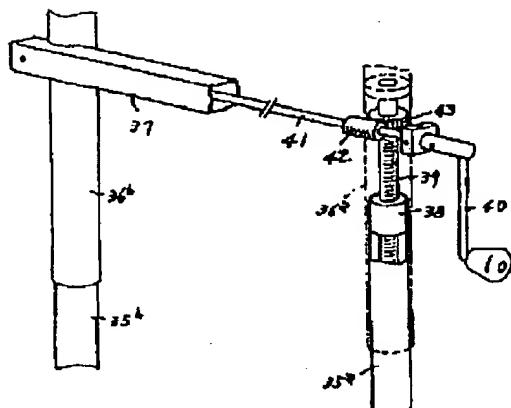


新阳平 4-49965 (8)

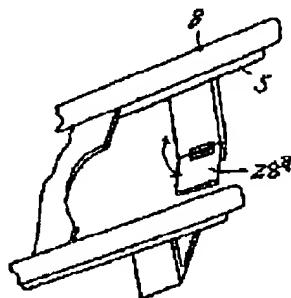


特開平4-49965 (9)

第14回



第15回



## 平成4年特許出願(方式)

平成2年6月14日

特許庁長官 職

1. 本件の名称  
特開平2-156151号

2. 発明の名前

障害物用の警報装置

3. 調正をする車両

車両との関係 特許出願人

車両番号 791

住 所 愛知県豊山町羽根町172番地4

氏 名 井 稔 忠

4. 調正命令の日付

平成2年6月13日

平成2年6月26日(発明日)

5. 調正の対象

図面(第9回)

6. 調正の内容

図面(第9回)を測定装置(第9回)の通りに構造修正する。

7. 本件の図面の図序

(1) 図面(第9回)

1. 頁

草上



-339-

特開平4-49965

【公報種別】特許法第17条の2の規定による修正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成10年(1998)12月2日

【公開番号】特開平4-49965

【公開日】平成4年(1992)2月19日

【年通号数】公開特許公報4-500

【出願番号】特願平2-156151

【国際特許分類第6版】

A61H 3/04

A61G 5/00

【F1】

A61H 3/04

A61G 5/00

平成4年正月(改定)

平成4年正月(改定)

特許庁発行

1. 平成の改定  
平成2年特許法第160条の1号2. 平成の改定  
特許法第160条の2号3. 修正をする者  
申請との別称 特許出願人  
修正部分 17条1  
他 新規特許出願の申請者  
立場 有効期間4. 修正の効果  
同種書の「新規の特許出願」の範

5. 修正の内容

(1) 既存特許出願と同様に「新規にせければならず」とか「新立し立めればかず」とに修正する。

(2) 既存特許出願の又加えを行ふ「既存出で」を「既存出で」に修正する。

以上



-1-